

1-2				
主題	介護職員と歯科衛生士の連携によるサービスの向上			
副題	健康な口腔がもたらす生活の質の向上			
キーワード 1	口腔ケア	キーワード 2	他部署との連携	研究(実践)期間 18ヶ月

法人名・事業所名	社福) 園盛会 特別養護老人ホーム多摩の里むさしの園			
発表者(職種)	早坂穰(介護課主任)、岩田恵利香(介護職員)			
共同研究(実践)者	横田幸子(歯科衛生士)、他			

電 話	042-555-8151	F A X	042-555-8152
-----	--------------	-------	--------------

事業所紹介	当施設は、平成10年に開設した定員150名の従来型に加え、同一建物に定員18名のユニット型地域密着型特養を併設しています。25名単位ブロックケアと9名単位のユニットケアという、それぞれの特徴を生かしたケア行っています。また、「その人らしさを大切に」の法人理念のもと、ご入居者の自立支援を行っています。
-------	--

<p>《1. 研究(実践)前の状況と課題》</p> <p>毎食後に介護職員による口腔ケアを実施していたが、ご入居者一人ひとりの口腔内の特徴への理解や、それに対応する為の専門的な知識・技術が不足している面があり、十分な口腔衛生が保てていないことが課題であった。</p> <p>平成27年に歯科衛生士1名が常勤職員として入職し、全入居者へ定期的な口腔ケアを実施すると共に、口腔状態の確認及び把握を行った。</p> <p>口腔内の痛みにより義歯が着用できず、ご本人が望む食事形態で食事を召し上がれない方や、義歯が着用できないことで他者との会話・交流に遠慮をされてしまう方、口腔内の清潔保持が特に必要である胃瘻を造設されている方や、介護職員による口腔ケアが困難な方が多くいる中で、歯科衛生士から介護職員への専門的な知識や技術の教示機会を設け、ご入居者についての情報共有や連携した支援を実施することで、生活の質を向上する為の取り組みを行うこととした。</p> <p>《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》</p> <p>目的 介護職員と歯科衛生士の連携により、食の楽しみの継続や、それに付随した生活の質が向上する</p> <p>仮説 ご入居者の口腔状態が維持・向上することで、食事生活のみならず、他者との交流や活動量の増加など、社会性の向上の支援が行えるようになる</p> <p>期待する成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・口腔衛生が保たれる。 ・ご入居者一人ひとりの特性に合った適切な口腔ケアの実施。 ・介護職員の口腔ケアへの意識及び知識の向上。 ・ご入居者が望む食事形態での食事提供。 	
---	--

- ・食事だけではなく、生活全体の質の向上を実現する。

《3. 具体的な取り組みの内容》

- 1.ご入居者一人ひとりの状態や機能に合わせた口腔ケア用品の整備。
- 2.介護職員と歯科衛生士で協議し口腔ケアの方法で見直しが必要なご入居者の洗い出しを行う。
- 3.歯科衛生士のアドバイスを受けたうえで、介護職員による口腔ケアの実施。
- 4.ご入居者の口腔内を定期的に観察し、改善が見られたら、食事形態の変更などの生活支援についての検討を実施する。

《4. 取り組みの結果》

- ・介護職員と歯科衛生士の連携により、口腔内の清潔を保つことができた。また、必要な方は義歯を新調したことで、食事形態を極刻み食から常食へ変更することができた。そのことによって、以前からご本人の希望であった、施設行事である日帰り旅行にも参加ができたご入居者もいた。
- ・適切な口腔ケア用品の選定や口腔ケア方法の協議を重ねることにより、介護職員のご入居者への口腔内の観察力やケアの技術が向上した。
- ・胃瘻を造設されているご入居者への口腔ケアの方法を協議・実施することにより、口腔内の状態が飛躍的に向上し、口腔内吸引が容易に行えるようになった。
- ・「義歯が合わなくて付けると痛い」という理由で、義歯を付けずに極刻み食をご自分で全て混ぜ合わせて召し上がっていたご入居者に対して、口腔内の状態を向上する働きかけを行うと同時に、義歯の調整を行うことで、義歯を着用しながら常食を召し上げていただくことができた。その後、食事も一品ずつ召し上がるようになり、食本来の楽しみについて他入居者との会話が多く聞かれるようになった。

《5. 考察、まとめ》

歯科衛生士の常勤での入職後、介護職員との連携を密にとることにより、ご入居者の口腔内の環境向上だけではなく、取り組み以前よりも食事を楽しんでいただくことができた。また、ご入居者同士の関係性の向上や、日常生活での活動性も向上することができた。

また、そのようなご入居者一人ひとりの生き生きとした姿を見て、介護職員もやりがいを実感し、更なる口腔ケアや口腔衛生に対する意識が高まった。

今回の取り組みで他職種連携の重要性を再認識することができた。今後もご入居者の生活が向上するように、歯科衛生士のみならず、様々な職種との連携を重ね、ご入居者支援の改善を行っていきたい。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究(実践)発表を行うにあたり、ご本人(ご家族)に口頭にて確認をし、本発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《7. 参考文献》

「口から食べ続けられる社会の実現に向けて！リハビリテーション医療からの改革！シンポジウム」(2016年12月)株式会社クリニコ 配布資料

《8. 提案と発信》

食事を楽しむことや、生活の活性化を推進していくと共に、介護予防や誤嚥性肺炎等の疾病の予防により、ご入居者に健康的な生活を送っていただくという観点も併せて意識しながら、今後も取り組みを継続していきたい。